

講座2 「子どもの見方、気になる行動」



<講座内容>

前半は、本校地域支援センター教育支援アドバイザーである、服部弘子先生より、「子どもの見方、気になる行動」について話をしました。説明の中で、子どもにとっては支援者も環境の一つであるということや、良い行動が増えることで望ましくない行動が減るといった話がありました。これまでの子どもたちへのかかわり方が適切であったのかを振り返る、大変良い機会となりました。

後半は、子どもの行動、教師のかかわり方について、参加者の先生方が日頃悩んでいることや困っていることを各自持ち寄り、グループに分かれて協議を行いました。「元気の出る話し合いを！」「支援の方向性を話し合う！」「明日からできる支援策を！」の3点を事前に確認したことで、前向きな話し合いになり、積極的に意見交換をすることができ、今後の指導に役立つグループ協議となりました。

～参加者の感想より～

- ・「先生が困っているが、子供も困っている。」「行動を起こすきっかけがある。」「良い行動を増やすことで、好ましくない行動が減る。」という言葉が印象に残りました。生徒の状況をよく見て、好ましい行動ができれば支援していくことを今後心がけたい。
- ・グループ協議は、自分が抱えている問題に対してアドバイスをいただくことができ参考になりました。2学期から実践していきたいと思います。
- ・協議の中でアイデアを出し合うことで、今まで思いつかなかった解決策にたどり着くことができました。
- ・子供たちの悩みの背景を知ることができて、より広い目で子供を捉えていくことの大切さが分かりました。